

令和7年度 ポリシーブック



JAYOUTH

地域に開かれた組織・活動をめざして

大分県農協青年組織協議会

目 次

I. 地域の担い手の課題

- ① 労働力と人材 1

II. 農業経営上の課題

- ① 関係機関との連携 3
- ② J Aについて 7

III. 自然環境の課題

- ① 外来種による被害 10
- ② 鳥獣被害への対策 12
- ③ 高温障害による被害 13

I. 地域の担い手の課題

<テーマ> 労働力と人材

【現状と課題】（由布・玖珠九重）

- ① 高齢化による離農者の増加と新規就農者数の低迷から労働力や人材が不足しており、その確保が難しい。

【解決策(自助)】 個人・青年部としての取り組み

- ① 独りで悩みを抱えることを解消するために、作目にかかわらず、農業経営全般に関する協議・共有する場を設ける。
- ② 農繁期における盟友同士の農作業を補助することにより作目の垣根を超えた労働力確保と作業効率化を図る。具体的な仕組みとして、SNSを活用した「仲間ネットワーク（仮称）」を検討・構築する。
- ③ 雇用確保対策として、盟友各自で求人や賃金交渉は行う。

【解決策(共助)】 J Aと一体となった取り組み

- ① 新規就農者に対して継続的な技術指導を行う。
- ② 作目別部会だけでなく、農業全般に対する課題等を協議・共有する場を定期的に設ける。
- ③ 作目別に限らず、農業全般を捉えるためのJ A青年部の組成・設置を行う。
- ④ 労働力確保の観点から、農福連携も視野に入れ、J Aが窓口になり農繁期に紹介する仕組みを作る。
- ⑤ 農繁期における盟友同士の農作業を補助する取り組みを支援する。具体的には、自助で取り組むSNSを活用した「仲間ネットワーク（仮称）」の構築を支援する。
- ⑥ 地域農業者に対して作業受託の窓口となり労働力確保と地域活性化を図る。

- ⑦ J Aが窓口になり、生産部会から高校へ求人依頼ができる仕組みを作る。
- ⑧ 作目を横断したヘルパー人員の育成と確保を行う。その上で、農繁期に労働力を配分する仕組みを構築する（外国人労働者も含む）。
- ⑨ 機械整備能力を有した専門職員を育成する。また、機械の整備講習会を開催する。
- ⑩ 遊休農地の解消のため、土地の所有者と利用者とをマッチングさせる場を設ける。

【解決策(公助)】 行政への提案・要望

- ① 既存の協議体運営だけでなく、J Aと連携したきめ細やかな指導を要望する。
- ② J A・行政が連携し、地域の維持・振興の観点から事業継承先を探すための制度を構築願いたい。
- ③ 農地中間管理機構の尽力を求める。
- ④ それぞれの施策に対する人的・金銭的補助を要望する。
- ⑤ 機械整備能力を有した専門職員の育成や講習会開催に対する補助を要望する。
- ⑥ 新規就農者の獲得および既存の就農者確保の観点から、水田活用直接支払交付金などの補助事業に関する支援単価の維持を要請する。

Ⅱ．農業経営上の課題

<テーマ> 関係機関との連携

【現状と課題】（玖珠九重）

- ① 農家・行政・JAの連携が不十分であるため、地域農業ビジョンの周知理解が徹底できていない。

【解決策(自助)】個人・青年部としての取り組み

- ① 勉強会等を開催し、地域農業ビジョンに対する理解を深めるよう努力する。

【解決策(共助)】JAと一体となった取り組み

- ① 地域農業ビジョンを農家組合員に周知する場を設定し共有を図り、その上で、地域農業振興計画などの長期計画を農家組合員・JA役職員が一体となって策定し、実践する。
- ② JA役員と青年部盟友との定期的な意見交換会を実施することにより地域農業の現状や課題について情報共有を図る。

【解決策(公助)】行政への提案・要望

- ① 行政が策定したビジョンをJA青年部などの若手生産者を中心に説明し、共有する場を提供願いたい。

【現状と課題】（山香・由布・玖珠九重）

- ① 県産農畜産物の広報活動が十分でないため、ブランド力が弱い。

【解決策(自助)】個人・青年部としての取り組み

- ① 生産技術の向上による高品質・高収量の確保に取り組む。
- ② JAが設定した学校への食農教育の場で、生産者として講師を担う。
- ③ SNSなどを通じた情報発信を行う。

- ④ イベント活動等を中心に県産農畜産物の試食宣伝や報道機関へのプレスリリース、SNSを活用した情報発信を充実する。
- ⑤ ネーミングやPR方法など、他県や多品目の成功例を調べる。
- ⑥ 地域イベントへの寄贈企画の検討・実現する。

【解決策(共助)】JAと一体となった取り組み

- ① 「ヤマジノギク」「ホオズキ」「なつほのか」ブランディングに取り組む。
- ② 学校への食農教育の場を設ける（出前授業等）。
- ③ 広報誌やテレビ番組などを通じて「豊後牛」「ベリーツ」の名を積極的に発信し、ブランド力の強化を図る。

【解決策(公助)】行政への提案・要望

- ① 「ヤマジノギク」「ホオズキ」「なつほのか」「ベリーツ」「豊後牛」など、消費者へ周知を図るためのスローガンやメッセージなどブランド力の強化を図るための手立てを講じてもらいたい。
- ② 学校給食へ県産農畜産物を利用するなどJAと連携したブランド推進を図ってもらいたい。
- ③ 「地産地消」と「消費拡大」の観点から、自衛隊や学校給食の食事などに県産農畜産物を使用してもらいたい。また、大分県出身著名人を中心に、県産農畜産物の寄贈企画を検討し実現してもらいたい。

【現状と課題】（山香）

- ① ライスセンターにおいて、農業機械（粃摺り機）が不足している。

【解決策(自助)】個人・青年部としての取り組み

- ① 未利用者のリストアップと意向把握を行う。
- ② 機械導入を前提として、未利用者に対しライスセンターの利用を促す。

【解決策(共助)】 J Aと一体となった取り組み

- ① 設備投資にかかる意見交換会や説明会を実施する。
- ② 「新たな機械」の導入に向けた各種手続き（補助事業申請など）を担う。

【解決策(公助)】 行政への提案・要望

- ① 「新たな機械」の取得に対する説明会の実施並びに補助金を負担願いたい。

【現状と課題】（由布）

- ① 行政等の各種補助金についての情報提供が少ない。また、自身の品目に該当するかどうか行政のホームページが分かりづらい。

【解決策(自助)】 個人・青年部としての取り組み

- ① 盟友自ら補助金に関する情報収集を行う。

【解決策(共助)】 J Aと一体となった取り組み

- ① 営農指導員の巡回等、対話の機会を増やす。
- ② 各種補助金に関する情報提供や申請手続きの支援を行う。

【解決策(公助)】 行政への提案・要望

- ① J Aと協力し、新規就農者や規模拡大を考える生産者等に対し、作目別の補助金にかかる研修会を実施してほしい。
- ② 各種補助金について、品目別にホームページに掲載してほしい。

【現状と課題】（玖珠九重）

- ① 畜産クラスター事業の補助金について、支給要件のハードルが高い。
また、申請にかかる手続きが複雑で分かりづらい。

【解決策(自助)】 個人・青年部としての取り組み

- ① 盟友自ら補助金（クラスター事業）に関する学習を行う。
- ② 支給要件を満たせるよう経営基盤を強化するとともに、地域ぐるみで高収益型の畜産体制の構築に取り組む。

【解決策(共助)】 JAと一体となった取り組み

- ① 畜産クラスター事業に関する情報提供や申請手続の支援を行う。
- ② 畜産クラスター事業に精通した職員を育成する。

【解決策(公助)】 行政への提案・要望

- ① 経営規模に応じた支給要件の緩和措置を講じてほしい。

Ⅱ．農業経営上の課題

<テーマ> JAについて

【現状と課題】（山香）

- ① JA職員の人事異動により、専門性を持った職員が不足している。
- ② 人事異動等を背景に農家組合員へのサービスが低下している。

【解決策(自助)】個人・青年部としての取り組み

- ① 盟友を増やすことにより、自分たちの意見を広くJAに伝えられる体制を作る。
- ② 個々の意見や問題点を取りまとめ、単組ごとに地区別説明会等で地区のJA役員へ相談する。
- ③ ②以外に意見交換会を開き、JA役員へ問題点や課題を提起し、解決策を検討する。
- ④ 地域の役員・総代を輩出し、JA青年部に理解のある理事をバックアップする。
- ⑤ 自ら役員となることも視野に入れ、JA運営に若者の意見を反映しやすい体制を構築する。

【解決策(共助)】JAと一体となった取り組み

- ① 地域に根差したJAとして、農家組合員としっかり向き合う体制を構築する。
- ② JA役員と青年部盟友との意見交換会を定期的に行い、課題改善（解決）に向けたPDCAを促すために当月提出された意見や課題に対し、翌月に対応方針等を提示する。
- ③ 組合員サービスの低下しない人事異動を実施する。
- ④ JA青年部と連携し、広域共通品目（水稻、イチゴ、ホオズキ、ヤマジノギク等）に関する情報交換会を開催し地域での課題の洗い出しや実践における成功例等の情報共有の場を設け、農家組合員とJA職員が共に学ぶ機会を作る。

- ⑤ 農家の所得に直結する「補助事業」に対する知識を有した専門職員を育成・確保する。
- ⑥ 所属部署にかかわらず、災害発生時など緊急を要する業務が発生した場合には、部署を横断的に対応できる仕組みを構築する。

【現状と課題】（山香・由布・玖珠九重）

- ① J A内に4単組しか存在せず、盟友数も他県と比べ少なく、活動もコロナ禍の影響等により縮小傾向となっている。

【解決策(自助)】 個人・青年部としての取り組み

- ① 自らの活動の活性化を図り、盟友自ら加入に向けた声掛けなど盟友数の拡大に努める。
- ② 青年部活動の本来の意義である農政活動（政策提言等）をポリシーブック基軸として盟友間で共有し、後進にも伝える。
- ③ 青年部の存在を知ってもらうために、青年部活動やポリシーブックについて行政等へ周知を行う。

【解決策(共助)】 J Aと一体となった取り組み

- ① J AにおけるJ A青年部の意義・位置づけを明らかにし、J Aにとって必要なJ A青年部の今後の支援内容・ビジョンを明確にする。
- ② 青年部未設置地域の加入希望農家が加入できるよう、J Aおおいた全体として青年部を設置する。
- ③ 青年部や農政推進本部と一体となって農政活動を推進する。
- ④ 青年部加入のメリット（資材が何%安くなる等）を検討する。

【解決策(公助)】 行政への提案・要望

- ① 4 Hクラブを卒業した時点でJ A青年部に加入する仕組みをJ A・行政が連携し、構築してもらいたい。

【現状と課題】（玖珠九重）

- ① 盟友とＪＡ職員との連携が不十分のため関係性が希薄であり、信頼関係が構築できていない。

【解決策(自助)】 個人・青年部としての取り組み

- ① 信頼関係構築のため、交流の場を企画・開催する。

【解決策(共助)】 ＪＡと一体となった取り組み

- ① 青年部が企画する交流の場に職員が積極的に参加できるよう配慮する。
- ② 盟友との信頼関係構築のため、交流の場を企画・開催する。

Ⅲ. 自然環境の課題

<テーマ> 外来種による被害・家畜伝染病

【現状と課題】（玖珠九重）

- ① チョウセンアサガオ、ワルナスビ、ヨウシュヤマゴボウによる家畜の中毒被害が発生している。
- ② 隣県で発生したランピースキン病の水際対策

【解決策(自助)】個人・青年部としての取り組み

<外来種>

- ① 発生場所を確認した際には、遅滞なくＪＡに連絡する。また、被害が確認された場合は、被害状況（面積・被害農家戸数）を正確に把握し報告する。
- ② 行政・ＪＡからの連絡を盟友間で共有し、対策を実行する。
- ③ 情報共有に際してはＳＮＳを活用したネットワークを構築する。

<家畜伝染病>

- ④ ランピースキン病の原因となるサシバエの卵・幼虫・さなぎ・成虫対策を徹底する。

【解決策(共助)】ＪＡと一体となった取り組み

（短期対策）

- ① 行政・農家との連携の下、発生場所を特定し、近隣農家への伝達・共有を図る。なお、被害の規模は正確に農家から把握する。
- ② 共有にあたっては、生産部会だけでなく速やかに発生状況を伝達できる体制を構築する。
- ③ 行政の指導に基づき、農家と連携の下、防除・除草に努める。
- ④ ランピースキン病の対策指導を徹底する。

（長期対策）

- ① 農場での状況を確認・把握するとともに、有効な薬剤の開発をＪＡ全農へ打診する。

【解決策(公助)】 行政への提案・要望

(短期対策)

- ① J A・農家との連携の下、発生場所を特定し、近隣農家への伝達・共有を図ってもらいたい。
- ② 防除・除草するための対策を関係機関へ周知徹底願いたい。
- ③ ランピースキン病の対策指導を関係機関へ周知徹底願いたい。

Ⅲ. 自然環境の課題

<テーマ> 鳥獣被害への対策

【現状と課題】（山香・由布）

- ① イノシシ、シカ、イタチ、アナグマなどの鳥獣被害が発生している。
また、狩猟免許の更新・登録にかかる費用負担、狩猟免許保持者の人材不足が問題となっている。

【解決策(自助)】個人・青年部としての取り組み

- ① 被害が発生した場合には、被害状況を把握し、遅滞なく J A や行政に連絡する。
- ② J A ・行政からの連絡を盟友間で共有する。
- ③ 情報共有に際しては S N S を活用したネットワークを構築する。
- ④ 地域が一丸となって鳥獣被害対策に取り組むため、講習会等を通じて知識向上を図るとともに、地域で対策について話し合う。

【解決策(共助)】J A と一体となった取り組み

- ① 行政・農家との連携の下、発生場所を特定するなど、近隣農家への伝達・共有を図る。
- ② 行政の指導に基づき、農家と連携の下、駆除に努める。
- ③ 鳥獣被害に関する講習会等を開催し、農家、地域住民、J A 職員、行政の担当者等、集落を巻き込んだ鳥獣被害対策に取り組む。

【解決策(公助)】行政への提案・要望

- ① J A ・農家との連携の下、発生場所を特定するなど、近隣農家への伝達・共有を図ってほしい。
- ② 狩猟免許の更新・登録にかかる費用負担を願いたい。
- ③ 狩猟免許保持者の人材育成対策を検討願いたい。

Ⅲ. 自然環境の課題

<テーマ> 高温障害による被害

【現状と課題】（玖珠九重）

- ① 近年の猛暑や干ばつによって農作物（園芸品目：トマト）への影響が発生している。

【解決策(自助)】個人・青年部としての取り組み

- ① 被害状況を踏まえ、ハウス等の施設強化の対策を講じ、高温障害に強い農業を実践する。
- ② 農業者自ら様々なリスクに備え、収入保険や農業共済等に参加する。
- ③ 高温障害による被害発生時にSNS等を活用して、近隣の農家（盟友）等に情報の提供・共有を図る。

【解決策(共助)】JAと一体となった取り組み

- ① 高温障害による被害発生時に情報が提供・共有できる体制を整備する。
- ② JAが被害状況を迅速に確認し、行政へ農家の要望に沿った支援要請を行う。
- ③ JA共済やJAバンク等における新しい商品や融資の開発を行う。

【解決策(公助)】行政への提案・要望

- ① 猛暑に強い農作物の品種改良を行うとともに、疏水等の整備を強化する。